

どんな構想を持っているか 地域の賑わいの拠点目指す



みずの さち 議員
水野 佐知 議員

問 こぶしのさととは、佐賀北部のシンボルの存在で、地域住民の関心が高く、再開を待ち望む声が多い。

答 今議会で、条例と改修工事等の予算が出たが、どのような構想を持っているのかを問う。

問 社センターこぶしなどがあり、相互に連携し、地域の維持活性化、及び交流事業拡大の拠点施設となるよう取り組んでいく。

答 今後の運営について、具体的な相談先はあるか。

問 指定管理で、住民の声や町の意見等は取り入れてもらえるか。

答 渡辺企画調整室長
近隣施設や地区住民とこぶしのさとを繋ぐ役割が必要である。佐賀北部地域活性化協議会にも定期的に参加するなど、関わりを持つていく。

問 こぶしのさととは、災害時の避難所としても大事な施設と考えるが、耐震対策等も含めて問う。

答 渡辺企画調整室長
地域防災計画で、異常気象時、豪雨等及び地震、津波時の避難所に指定。収容人数は屋内70人、屋外3155人の計3225人だ。

問 渡辺企画調整室長
温泉に行く用事を作り外出を促す、人と会うことも大切。継続利用し、心身の健康増進にも繋がるとも。

答 渡辺企画調整室長
以前の経営者とも町との避難所開設の協定書を交わしていた。今後、指定管理者を公

また、周辺には、拳ノ川診療所、集落活動センター、あったかふれあいセンター、高齢者生活福



再開予定の「土佐佐賀温泉こぶしのさと」

募の際に、避難所開設の協力体制も盛り込み、より良い避難所運営ができるよう調整し、こぶしのさと再開に向けて取り組んでいく。